

愛知大学国際中国学研究センター(ICCS)
「中国文化とアジア世界の文化共生」研究会

もう一つの日中関係 — 沖縄と福建の文化交流 —

講師 小熊 誠 氏

沖縄国際大学総合文化学部長・教授

司会： 周星（ICCS 事業推進委員・本学教授）

概要：

中国と琉球の間には、明朝から清朝にかけて約 500 年にわたって朝貢関係による交流がありました。琉球との交流の窓口は、福建でした。この長い交流の歴史の中で、多くの人と文化が琉球と福建の間を行き来しました。しかし、いわゆる琉球処分によって琉球が沖縄県として日本の一部に組み込まれたことによって、近代には沖縄と中国との直接的な交流は途絶えることとなります。

ところが、近代以前に数多くの文化が中国から導入され、沖縄の民俗として今なお定着しているものが少なくありません。沖縄の特徴としてまず目につくのが、石敢当やシーサーです。それは、風水の魔除けとして風水思想とともに中国から伝来しました。門中や亀甲墓、清明祭なども、中国から沖縄に定着した民俗です。それらのルーツを探り、沖縄と中国の文化的交流を考えます。

2005年6月20日(月) 15:00～16:30

愛知大学名古屋校舎 中央教室棟 3階第4研修室

* 講演は日本語でおこないます。

* 申し込み不要。

聴講無料